

指田豊教授は東京薬科大学大学院修了後、同大学で生薬学教室・薬用植物学教室の助手、助教、教授を務め、さらに薬用植物園園長も兼任された。今年度をもって東京薬科大学を退職されるにあたり、我々新聞会では教授にインタビューを行い、東薬での長期にわたる研究・教育活動の思い出などを伺った。

「教育活動において重点的に行なったこと、苦勞した点、またその成果を教えてください。」

「薬学は学ぶべき事柄が多いので、嫌いで絶対には身につけません。薬学の大切さと面白さ、仕事の大切さを知り、薬学に興味を感じていれば勉強

が楽しくなり、知識も自然に身につけてきます。私は自分の生薬や漢方の講義を通じて、学生が薬学の勉強に意義と興味を感じるように努めてきました。それなりの効果はあったと思いますが、何を話しても最初から関心のない学生も見受けられ、それが残念でした。」

「先生にとって教育とは何ですか？」

「教育とは知識の切り売りではありません。学生の意識、意欲を高めることです。」

薬用植物・生薬の薬効を現在の知識と技術で解析して新しい用途を開発したり、多様な構造の植物成分の生理活性スクリーニングにより新薬開発のリードを得るなど、薬用植物は非常に魅力的な医薬資源です。また、長い歴史があるだけに、ひとつの生薬に植物学、民俗学、歴史等にかかわる多くの物語があり、追求すればするほど面白くなってきます。」

「今までに行った研究のテーマ、特に力を入れた研究の成果を教えてください。」

「大学院時代は厚朴の成分研究をしました。その後、世界中のユリ科植物のステロイドサポニン



薬用植物学教室 指田豊教授

人生は一回限り

喜びもあります。」

「退職後はどんな生活を送りたいですか？」

「数ある機能性食品、サプリメントの中には本当に効果があるのか怪しいものもあります。その効果を客観的に解析し、効果のないものもあるものがあります。」

「東薬で印象に残っている事はなんですか？」

「大学院の学生の時に、二年間女子部の薬用植物学の講義を担当したことがありますが、あと、東薬生に限らず最近の若

齋田誠一教授は東京薬科大学に赴任されてから三〇年もの長きに渡って本学の英語教育に携わってこられた。教授は「アメリカのことを研究するイギリス好き」と公言されているだけあって、ご自身のアメリカやイギリスの文化に関する多彩な知識を交えた講義をされていた。ご自身の大学の英語教育に関する考え等を東薬の思い出を含めて語っていただいた。

「一言で言えばジェントルマンとレディーを養成する場所であるという事です。それは大学の歴史をちょっと調べるとすぐ分かるのですが、大学というものができてから

「特に英語に限っては日本の教育についてはどうお考えですか？」

「特に薬学部の英語教育

通訳をしはるくやりました。その後、都立高校の英語の先生になり、二つの学校で合計八年半くらいやりましたが、その間にハワイ大学には一年間留学的なことをしました。昭和四八年だったと思うのですが、東京薬科大学に赴任しました。」

「東京薬科大学に限らず、教授にとっての大学教育そのものに対する考えなどを聞かせて下さい。」

「一言で言えばジェントルマンとレディーを養成する場所であるという事です。それは大学の歴史をちょっと調べるとすぐ分かるのですが、大学というものができてから

「特に英語に限っては日本の教育についてはどうお考えですか？」

「特に薬学部の英語教育

をどうすべきかといったことに関しては、二・三年前に薬学部で委員会を設け、そこで審議した結論がすでに出ています。教育を行う目的は、かつ

「その中心は論理思考

「その中心は論理思考

「その中心は論理思考

「その中心は論理思考



第一英語教室 齋田誠一教授

老兵はただ消え去るのみ

「その中心は論理思考

「その中心は論理思考

「その中心は論理思考

「その中心は論理思考